

希望の種 ふくおかNPOファイル

10

NPO法人福岡すまいの会は2003年にホームレス支援を目的に設立されました。住居を手に入れ社会生活を営むことが自立の第一歩になるという「ハウジング・ファースト」の理念を中心に置き、部屋を借りるときに必要な無償の保証人活動や不動産の借り上げ支援を行っています。現在は福岡市内の集合住宅を借りた約50室のサポートホームや、同市から委託を受けた市就労自立支援センターが活動の中心です。

ただ、昨年には法人の活動内容を「ホームレス状態をはじめとする生活困窮者」と位置づけ直しました。生活保護の相談体制や住宅支援の充実

福岡すまいの会

事務所＝福岡市博多区▽電話番号＝092(451)6077
メールアドレス＝fukuokasumainokai@yahoo.co.jp

住居で人生に寄り添う

で路上生活者は以前より少なくなりましたが、その分、貧困の実態が見えにくくなったからです。

厚生労働省の全国調査によると、福岡市で09年には969人が確認されていた路上生活者は15年、183人にまで減少。一方で、近年は友人宅やネットカフェ等に寝泊まり

回、喫茶店を開店。かつて水のお客さんと接します。こちら側から地域に溶け込むことで生活困窮者のニーズをくみ取り、早期に相談対応を行える関係性を築くのが目的です。生活困窮者の支援はスキルや専門知識が必要ですが、喫茶店ならば一般の大学生や主婦でも出来ることがあり、現在は10人がスタッフとして

入居者もスタッフとして一般入居者もスタッフとして一般入居者もスタッフとして一般入居者もスタッフとして一般

は人生そのもの。1度関わることになったら、10年の付き合いを考へることになりま。例えば高齢の単身者の場合は、入居や就労の支援では終わりません。その人生に寄り添い、生活を見守り、悩みを聴き、孤立を防ぎます。介護認定取得をサポートすることや、入院時の連絡先を引き受け、最終的には遺品の整理をすることさえあります。

原則毎週月曜掲載

する、短期路上生活者のケースが増加しています。就労自立支援センターに14年度、新規入居した79人の平均年代は40代と若く、うち16人が20代でした。

そんな中、ホームレスを支援する雑誌社から「すまいの会」に転職した服部広隆さん(33)が中心となって立ち上げたのが「喫茶昭和じかん」です。サポートホームとしても利用している、東区の集合住宅1階の店舗スペースで月1



集合住宅の店舗スペースを利用した「喫茶昭和じかん」福岡市東区

登録しています。「保留コーヒー」「保留ランチ」も導入しました。来店者が自分の分のほかに、もう1人分のコーヒーやランチを注文。これを「保留」して、お金が払えない人に提供するという、イタリアのナポリで始まった仕組みです。

Houseless (雨風をしのご場所がない)は短期的に解決できませんが、Homeless (帰る場所、居場所、コミュニティがない) 所、コミュニティがない) キ」代表理事・永田賢介)

すまいの会のロゴは、視覚障害者が使う「白杖」をあしらっています。生きにくさを抱えた人にそっと寄り添い、その人が自分の足で歩こうとする力を信じ、ただただ時間をかけて支え続ける。その姿勢に「命あるかぎり、あなたは何度でも立ち上げられる」という、静かに強いメッセージを受け取った気がしました。